

待望の小林可夢偉復帰戦で、シーズン2度目のポイント獲得

2021 全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦レポート

開催日程	2021年10月16日(土)/17日(日)	開催場所	ツインリンクもてぎ(4.801km)
大会名称	2021年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第6戦(35周 / 参加台数:19台)		
天候/気温	10月16日(土): 曇り時々雨 / 20℃ 17日(日): 雨のち曇りのち晴れ / 14℃		
観客動員数	10月16日(土): 3,600人	17日(日): 4,700人	計 8,300人 (主催者発表)



全日本スーパーフォーミュラ選手権第6戦は、前回の第5戦と同じくツインリンクもてぎで開催された。例年、夏休み真っただ中の8月に開催されているもてぎラウンドだが、今年はイレギュラーなカレンダーで2回の開催となり、その2回目は季節も秋にスライド。戦い慣れた場所ながら、いつもと違うコンディションでのレースとなった。

今大会では、今シーズンのレギュラードライバーとして登録されていたものの、世界耐久選手権(WEC)とのカレンダー重複によりここまで参戦が叶わなかった小林可夢偉が、ようやくKCMGのマシンコックピットに乗り込むことが叶った。ル・マン24時間レースの覇者としてレースウィークの間も様々な取材を受け、非常にあわただしい週末となったが、サーキットに入る前からいくつもミーティングを重ね、さらにサーキットに入ってからチームと共にコースウォークなどで最後の確認を行うなど、入念に準備を進めてきた。15日(金)の記者会見で「コロナ禍という状況で、いろいろなことがリモート、オンラインで進められるようになっているが、オンラインばかりですべてを終わらせるのは良くない。きちんと対面して自分の気持ちや考えを伝えること、一緒に働いて目的を達成するのはとても重要なこと」と述べていた小林は、その言葉通りエンジニアやメカニックと多くの意見を交わしながら週末を過ごし、チームは開幕以来となるポイント獲得を目指した。

【予選】

天気:曇り時々雨 / 気温:20°C / 路面コンディション: ウェット

#7 小林可夢偉	Q1A 組: - / no time
#18 国本雄資	Q1B 組: 7 位 / 1' 30.709 Q2B 組: 7 位 / 1' 50.529

この週末のツインリンクもてぎはぐずついた天気に見舞われ、公式予選日となる 16 日(土)は霧のような粒の細かい雨が落ちてくる、路面状況の見極めが非常に難しいコンディションとなった。

その予選前に行われたフリー走行では、いつも通りに走行とピットインを繰り返しながら小林、国本の 2 台はセットアップを煮詰めていった。セッション開始のころはまだ雨も落ちておらず路面はドライコンディションで、30 分もたたないうちに非公式ながらコースレコードを上回るタイムが出始める。国本も、開始から 1 時間弱というところで 1 分 30 秒 613 をマークして暫定トップに躍り出た。このあとは霧雨が落ちてきた影響もあり、タイムの更新はかなわなかったが、最終的には 7 位とまずまずの位置でフリー走行を終えることに。小林も、約 10 か月ぶりのスーパーフォーミュラ走行ながら、終盤に 1 分 30 秒 764 とこちらもレコードブレイク。国本に続き 9 位という順位で公式予選を迎えることとなった。

午後に入るとツインリンクもてぎの上空はさらに雲が厚くなり、霧雨が舞うような中で公式予選が始まった。まだまだ路面が濡れるほどではなく、Q1 の A 組は全車がスリックタイヤでコースイン。この A 組に、KCMG からは小林が出走した。セッション開始と同時にピットを後にした小林は、アウトラップを終えて 1 分 40 秒台、1 分 38 秒台とペースを上げながらタイヤをウォームアップさせていき、先頭でアタック開始。攻めの走りでもどのセクターでも全体ベストの速いタイムを記録していたが、90 度コーナーで縁石からわずかにタイヤがはみ出し、バランスを崩してしまう。そのまま立体交差下のタイヤバリアにヒットしてしまい、ストップ。フリー走行の状況からすれば Q2 進出は見えていた小林だが、車両にダメージを負い、ここで予選を終えることとなった。また赤旗提示の原因車両となってしまったため、Q1 の結果はノータイム。翌日の決勝レースは 18 番グリッドからのスタートが決定した。

続く Q1 の B 組で出走した国本は、小林同様にセッション開始と同時にコースインし、コースコンディションのチェックに向かった。A 組のセッション時と比べるとやや雨粒の量が増え、滑りやすくなった印象だ。国本はピットに戻り新品タイヤに履き替えると、路面コンディションに気をつけながらじっくりとタイヤに熱を入れていった。5 周目に 1 分 30 秒 968 で 6 番手につけるが、チェッカーフラッグを受ける最終ラップでライバルたちが続々とタイム更新し、国本は 8 番手にドロップ。このままでは Q1 敗退となってしまうが、同じく最終ラップで 1 分 30 秒 709 までタイムを短縮。すぐ上の順位にいた #37 宮田莉朋選手を 100 分の 39 秒上回り、7 番手に滑り込んで Q1 突破を果たした。

7 分で行われる Q2 はわずかに雨脚が強まり、タイヤ選択が非常に難しいコンディションでスタートした。国本は 6 分と言う短い時間の中でスリックタイヤのまま走り続ける戦略をチョイス。なんとか走行が続けたが、さらに雨の量が増えてきたことでタイム更新は難しい状況に。1 分 50 秒 529 で 7 位となり、Q3 進出はならず、決勝レースは 13 番手スタートとなった。

【決勝】 天気:雨のち曇りのち晴れ / 気温:14℃ / 路面コンディション: ウェット～ドライ

#7 小林可夢偉: 10 位 / #18 国本雄資: リタイア

決勝日は、前夜から降り続く雨が激しさを増し、午前中のフリー走行はヘビーウェットコンディションの中で行われた。足元をすくわれるドライバーもいて、30 分間のセッションは 2 度の赤旗中断を挟むことになったが、その中で小林は終盤にペースアップし 3 番手タイムを記録。国本は 10 番手タイムを刻んでセッションを終えた。

その後天候は徐々に回復。決勝レースのスタート進行が始まる頃には、1 コーナーの先ではわずかに青空がのぞくまでになった。コース上にまだ水は残っているものの、このままスタートすれば序盤のうちにスリックタイヤへの交換は必須な状況。どのタイミングでタイヤを交換するのも勝敗に大きく影響すると予想された。

気温 14℃、路面温度 17℃というコンディションで 35 週の決勝レースがスタート。18 番グリッドスタートの小林は、抜群のロケットスタートを決める。スタート直後の激しいポジション取りの中、コースのイン側にラインを見つけた小林は、1 コーナーまでに 5 台をパス。さらに 4 コーナーまでに 10 番手までポジションを押し上げると、ヘアピンの立ち上がりでひとつ前にいる#38 坪井翔選手に並びかけると、90 度コーナーまでのサイドバイサイドの戦いを制し、オープニングラップで 9 番手までポジションアップに成功した。一方国本は上々のスタートでポジションをキープしていたが、ヘアピンコーナーでの#20 平川亮選手とのバトルでコースオフ。すぐさまコースに戻り、18 番手から再び上位を目指した。17 番手を走る#12 タチアナ・カルデロン選手にぐいぐいと近づいていたが、3 周目の V 字コーナーを立ち上がったところで突如スローダウン。マシンを停めてしまう。スロットルにトラブルが発生したことが原因で、エンジンが止まってしまったのだ。残念ながら、国本はここで戦列を離れることになってしまった。

オープニングラップで 9 番手までポジションを上げた小林は、前を走る#16 野尻智紀選手を攻め立てていたが、6 周目に入るあたりから突如ペースダウン。ここまでウェットタイヤで攻めに攻めていた小林だが、19 台のマシンが周回を重ねていくうちに路面の水が弾き飛ばされ、少しずつ路面状況が変化してきたのだ。後続の#38 坪井選手、#36 中嶋一貴選手にかわされてしまう小林。ここをスリックタイヤの交換タイミングと判断したチームは 8 周目を終えるところでピットへと呼びこみスリックタイヤへの交換を行った。これをきっかけに、中団グループの数台が翌周にピットインしたが、まだ路面は滑りやすい状態で、ピットアウト後にマシンを滑らせてしまうドライバーも。なかでも、#4 サッシャ・フェネストラズ選手は 5 コーナーでスピンアウトしマシンがストップ。このためレースはセーフティカー(SC)が導入されることになった。

SC のタイミングを利用し、上位陣が次々とピットイン。早めのピットインでアンダーカットも期待できた小林だったが、ここでの大きな順位アップはかなわず。14 周目にリスタートが切られると、小林は 1 コーナーで#12 カルデロン選手をとらえ、さらに#37 宮田選手をかわして 13 番手に浮上。さらに上位陣でステイアウトを選択していた 3 台がピットに向かったため、16 周目には 10 番手までポジションを取り戻した。その直後、#12 カルデロン選手が 2 コーナーでクラッシュしてしまったことから、このレースで 2 度目の SC

が導入。路面コンディションはさらに回復し、21 周目のリスタートの時点ではスリックタイヤ勢も十分にタイヤが温まっていたことから、1 コーナーに飛び込んでいくところから至る所でサイドバイサイドの戦いが展開された。小林もシングルポジションを目指して#38 坪井選手の横に並びかけていくが、3 コーナーの先で#38 坪井選手がブレーキをロックさせてコースアウト。さらに小林の後方で 2 台のマシンが接触、クラッシュしたことから、すぐさま 3 度目の SC 導入となった。小林は#38 坪井選手とのバトルの際に#37 宮田選手にかわされ、10 番手のままで 3 度目のリスタートを迎えた。終盤には、周囲が 1 分 33 秒台で周回する中、1 分 32 秒 972 をマークし、最後までシングルフィニッシュを目指してプッシュ。9 番手に約 2 秒差まで迫りチェッカーを受けると、チームに開幕戦以来となるポイント獲得をもたらした。

どのチームにとっても初めての戦いとなった寒い時期のもてぎ大会で、久々のポイント獲得を果たした KCMG。国本がトラブルで戦線離脱となってしまったことが悔やまれるが、久々の Q2 進出で速さを示すこともできた。残るはいよいよ最終戦。鈴鹿サーキットでは 2 台揃ってのポイント獲得とシーズンの集大成を目指す。

【ドライバーコメント】

#7 小林可夢偉

寒い中、もてぎに見に来てくださった皆様、テレビなどで応援してくださった皆様、本当にありがとうございます。まずはポイントを獲得したことに、良かったと感じています。スーパーフォーミュラにはほぼ10か月近く乗っていませんでしたが、この週末は様々な路面状況でも合わせこんでいくことができました。ただ予選ではクラッシュしてしまい、チームに申し訳なかったです。レースに向けてしっかりとマシンを直してくれたメカニックに感謝しています。今回はリハビリのような感じでしたが、これからもチームと一緒にしっかりと準備をしていきたいと思えます。

#18 国本雄資

今大会は、予選でQ1を突破することができました。Q2は天候がとても不安定で、スリックタイヤで行くのかウェットタイヤで行くのか、その瀬戸際のような路面コンディションでした。僕たちはスリックタイヤを選択してQ2に挑みましたが、徐々に雨が降ってきてしまい思うようなアタックができませんでした。決勝レースでは、1周目のヘアピンコーナーで前のマシンをオーバーテイクしに行ったところ、タイヤをロックさせてしまいコースオフして、大きく順位を下げてしまいました。マシンのペースは良かったので、すぐに追いつきそうな雰囲気でしたが、急にエンジンがストップしてしまいリタイアとなりました。展開的には荒れたレースだったので、最後まで走っていればポイントを獲得するチャンスがあったと思えます。ほとんど戦うことなくリタイアになってしまったことはとても残念です。今シーズン、残すはあと1戦となりましたが、最後の鈴鹿戦でいいレースができるよう、しっかりと準備をして次に挑みたいと思えます。

【監督コメント】

松田次生監督

今大会は、久しぶりに可夢偉選手が戻ってきてくれて、フリープラクティスでは2台揃ってマシンのフィーリングは良さそうでした。予選では果敢に攻めていた可夢偉選手がクラッシュ。国本選手はQ1を通過したものの、Q2では天候に翻弄され敗退となってしまいました。

決勝では天候が回復し、スリックタイヤに交換するタイミングがポイントになりました。可夢偉選手は素晴らしいスタートで大きくポジションアップし、いち早くスリックタイヤに交換。彼らしい攻めの走りでオーバーテイクも披露して10位フィニッシュ。チームに貴重なポイントをもたらしてくれました。国本選手もいいスタートでしたが、1周目でコースアウトしてしまい、これから追い上げというところでエンジン系のトラブルが出てしまい、残念ながらリタイアとなってしまいました。

トップとの差を縮めるためにいろいろと改善も必要ですが、マシンに対していいコメントを可夢偉選手がチームに残してくれたので、しっかりと最終戦につなげていきたいと思えます。最終戦はチームみんなが笑顔で終わられるよう、全力で頑張ります。

ご声援ありがとうございました。引き続きの応援をよろしくお願いいたします。

